

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492000235	事業の開始年月日	H26. 8. 1
		指定年月日	H26. 8. 1
法人名	株式会社 エクセレントケアシステム		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 えくせれんと湘南平塚		
所在地	(〒259-1216)		
	神奈川県平塚市入野294-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	通い定員	名
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
自己評価作成日	H29. 10. 6	ユニット数	1ユニット
		評価結果 市町村受理日	平成30年2月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/JDSearch.aspx?JGNAME=1492000235
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日々の暮らしの中では、ご利用様が興味を抱いてくれる役割（カレンダー管理、園芸、調理、洗濯、掃除など）や活動（体操、運動、散歩、買い物、創作など）に関する支援を行い、自由に、自宅に居るのと同じような生活が送れる事を大前提とし、更に退屈しない日々の提供を心掛けています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成29年11月13日	評価機関 評価決定日	平成30年2月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所概要】 本事業所は、JR東海道線の平塚駅からバスで15分、停留所から5分ほどの場所にあり、高架の東海道新幹線が近くを通る新興住宅街の一角にある。法人は徳島に本社があり関西と関東で介護事業を運営している。同じ建物の1階が看護小規模多機能型居宅介護事業所で、2階と3階がグループホームになっている。開設後3年半の事業所である。キッチンが居間と食堂の中央に位置し見守りやすい配置となっている。床は清掃が行き届いており清潔感がある。明るく陽当たりもよい。</p> <p>【職員意見の反映】 職員意見を採用する方法として各種の委員会を開催している。これらの委員会を通じて、毎月10日を食事を重箱に入れて提供する「お重の日」（毎月10日）や、「お風呂の日」（毎月26日）、「肉の日」（毎月29日）など各種の記念日を設けたり、ミニ盆栽作りのサークルを組織するなど、職員意見を採用し活発に活動している。これら職員意見の採用により明るい環境となっており、勤続の長期化が実現している。</p> <p>【キャリアアップの支援】 教育研修として職員全員が介護福祉士を目指している。目標達成の折には給与等に反映させている。年に3回は事業所外の研修を受けるように指導しており、受けた研修は事業所内部で公開し共有化している。</p> <p>【豊富なレクリエーション】 テレビ体操、風船バレー、棒体操、オリジナルリハビリ体操、トランプ、かるた、オセロ、将棋、折り紙、パステルアート、ミニ盆栽作りなどの豊富なレクリエーションにより、利用者は日々安らぎある生活をしている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	えくせれんと湘南平塚
ユニット名	2 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに理念を掲示し、何時でも見られる環境としている。 又、毎朝唱和を行い、意識を高めている。	職員は、「理念」や「Jの介護」の各項目（自由に・自分らしく・自適に・自立する）、「接遇の言葉づかい」が印刷されたカードを携帯し、日々の業務において常に実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、自治会情報を把握している。 民生委員と日常的な交流を行い、必要に応じて民生委員に仲介して頂いている。 地域行事への積極的参加	金田自治会に加入している。 ハロウィンの時は、利用者が仮装して通学路に出て、下校時の小学生と交流している。 地域の住民がボランティアとして来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩等外出機会を多くし、積極的社会参加機会提供を行っている。 認知症啓発活動である「RUN伴」に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、包括、民生委員、協力医、行政書士等多彩な方々に参加頂き事業報告を行い、色々な情報を得てサービス向上に努めている。	2カ月に1回、看護小規模多機能型居宅事業所と共に開催している。参加者は利用者家族、協力医、自治会役員、民生委員、地域包括支援センター職員である。協力医からは風邪予防等の情報を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所関係各所との連携を密にし、各種情報の収集、提供を行っている。 又、報告・相談・連絡の徹底を図り、行っている。	平塚市のターミナルケアの研修会に参加している。生活保護受給者を受け入れているので、市の生活保護課との連携もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中開放、夜間のみ施錠している。（防犯上の意味） フロア出入口はキーロック対応としている。 その他身体拘束は厳しく禁じており、行っていない。	ユニットドアは素通しの大きなガラスで解放感がある。キーロックで施錠しているが、外に出たがる素振りのある利用者には、職員と一緒に散歩に出ている。身体拘束廃止の研修は全体会議の際に行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的社内研修の実施。 虐待に対する認識を高める為の日々の教育の実施。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的社内研修の実施。 成年後見人の活用、又それに伴う役所等への積極的相談。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様等に時間を頂き、契約内容等の細かな説明をし、ご納得頂いた上で御契約頂いている。 又、契約後も、疑問等は何時でも承るよう対応している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的運営推進会議の開催とその議事録等を全家族に提示している。 苦情・相談窓口の設置。	運営推進会議の議事録を家族に送付している。家族アンケートも予定している。頻繁に事業所を訪れる数組の家族には、その際に意見を聞いている。来訪が難しい家族には「おたより」等で様子を報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議開催。 期毎の全職員面談実施。 職員希望時、都度面談実施。	毎月定期的に開催している全体会議は、1時間を会議、後の1時間を研修としている。職員意見は、定期とせず随時管理者が直接聞いている。職員から「材料費は事業所が負担し利用者と一緒にミニ盆栽づくりをやってはどうか」という意見があり採用した。今はこのサークルが人気となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎期、各職員に目標の設定をしてもらっている。 各自の適性、適所を鑑み、更に本人の希望等を考慮し、雇用環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修によるスキルアップ。 社外研修の紹介、斡旋を積極的に行い、又、社外研修参加希望者に対する配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平塚市システム会議に登録・参加。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは顔を覚えて貰う所から始め、傾聴等のコミュニケーションにて徐々に信頼関係を構築していくようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から御家族様とのコミュニケーションを積極的に取り、細かな疑問、要望等も漏らさず対応出来るよう心がけ、ご家族の信頼を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント、担当者会議開催は勿論必須。日々の生活の中でバックグラウンドアセスメントの実施を徹底し、初期段階で見過しがちな内容も把握出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事等を一緒に行う等で一体感を抱けるよう努めている。 家族のような関係を築く事を大事に考えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議の開催とその内容の報告の徹底。 個々の内容に関しては、都度家族と連絡を取り合い情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人等の面会の積極的受け入れ。 ストリートビューの活用。	キリスト教徒の利用者のもとに神父が訪れている。家族対応で馴染みの美容院に出かける方がいる。インターネットのグーグルストリートビューという機能を使い、利用者の思い出の場所の画像を見てもらい、懐かしさを味わってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアレイアウトの工夫 サークル活動により、同じ趣味を持つ人同士の関係構築の実施		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口は常に開放しており、何時でも相談等を受ける体制を整え、又、その旨御家族様等に伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室内には本人意向に基づき自由な家具等設置して頂いている。 これまでの生活スタイルを重視し、出来る限りの対応をしている。	意向の把握が難しい利用者には表情から訴えていることを汲み取っている。またバックグラウンドアセスメントから潜在的な意向を把握している。把握した意向は申し送りやミニカンファレンス時に職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前アセスメントの徹底と、ご家族、関係者からのヒアリングを細かく行うよう努めている。 又、常にバックグラウンドアセスメント取得の意識を持って接している			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自に居室担当職員を配置し、併せて毎月のモニタリング等を含めての状況把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと逐一ミニカンファレンスを行い、又、関係者からの情報を元にしプランの作成、変更を行っている。	居室担当制を敷いている。見直しの期間は原則6か月であるが、担当する利用者のケアプランについて随時気がついた時に計画作成者にプランの変更を提案している。介護記録はケアプランに関連した内容を青字、それ以外は黒字、夜間は赤字で記録している。さらにケアプランも番号で種類分けを予定している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人生活記録の記載、職員申し送りノートの活用。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員に対し常に「既存の介護の常識等に捉われない」事を徹底させ、ニーズに対し出来る限り対応するよう指導している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物レク（毎週）、散歩等外出（好天時）等社会参加機会を設け、又、各種地元のイベント等にも積極的に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、主治医と家族の面談実施。 提携協力医による定期的往診と情報提供 異変時は協力医との連携による早期発見早期対応が来ている。	現在、利用者全員がかかりつけ医に受診している。月2回、かかりつけの内科医が往診している。併設の看護小規模多機能型居宅介護事業所の看護師が定期的に訪問している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートの活用 併設事業所看護師による定期巡回の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、計画作成担当者を中心にこまめに医療機関と連絡を取り合い、連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関するマニュアルの整備・活用。又、それによる研修の実施。 段階に入る前に、事業所・家族・主治医での話し合いの場を設け、連携を図っている。	毎年、併設の看護小規模多機能型居宅事業所の看護師を講師に迎え研修を行っている。医師と家族との話し合いの上で看取り介護を行っている。これまでに3名を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備。又、それによる研修の実施。 併設事業所看護師による指導、協力、助言。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の掲示 マニュアルの整備・活用 定期的避難訓練の実施 (1回/年は必ず夜間想定避難訓練を実施)	年2回防災訓練を行い、夜間想定訓練も行っている。備蓄は3日分の水や食料を用意し、備蓄リストを作成し、管理している。	現在、地域の方の参加はないが、民生委員から参加を促してもらう等、段階を追って参加者を増やしていく取り組みを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー、権利擁護に関する研修の実施。 利用者は全て私たちの人生の先輩であるとの認識の徹底。	職員は接遇カードを常時携帯しプライバシーに配慮している。また申し送りの際は利用者の実名でなく部屋名（花の名前）で行っている。ケア記録を保管している棚に上から布でカバーして、ケア記録が人目に触れないようにしている。個人情報を含む書類は鍵のかかる事務室で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションの中で話、表情等から見出された内容は勿論、その中に隠された潜在的希望を掘り出す事も大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事等の最低限の時間設定はさせて頂いているが、それ以外は、基本本人の自由にして頂いている。 消灯時間等も設定していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣、モーニングケアの介助の徹底。 定期的、化粧・ネイルアート等の実施。 衣類購入は基本、本人と共に行く。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>定期的イベント食の提供 利用者様からのリクエストを受け、それに基づいたメニューの設定。 提供時、食器変更での目で楽しむ機会の提供。</p>	<p>現在は業者に食材配送とレシピを依頼している。調理は職員が行っている。毎月10日を「お重の日」、29日を「肉の日」など記念日を設定し、テーマに沿ったメニューを提供している。また記念日に関連づけて利用者に日付を覚えてもらったり、メニューから日付を思いだしてもらおう等、時の見当識の維持・向上支援につなげている。</p>	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量、水分量のチェック 利用者様に応じた食事形態		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア介助		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に合わせた上での定時誘導、声掛けの実施。 職員間の情報共有。	排泄チェック表を参考に、時間や表情・仕草などからトイレ誘導をしている。夜間は定時にトイレに誘導している。パット交換にする時もある。トイレは職員が清掃を行っており、訪問時は清潔であった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて主治医、併設事業所看護師と連携し対応。 薬だけに頼る事無く、飲食物での調整、運動機会の提供等による調整を実施。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	大まかなスケジュールは設けているが、それをあくまでもベースとし、基本的に本人の希望に沿ったサービスの提供 足浴器の導入 定期的「お風呂の日」の実施	入浴日は原則として週2回にしているが、体調に応じて変更している。入浴を好まない利用者には無理強いせず時間を置いて誘導している。毎月26日を「お風呂の日」として菖蒲湯やゆず湯、入浴剤で入浴を楽しめるような工夫をしている。同性介助や2人介助にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備 寝具洗濯・日干し 各人に合ったベッド配置		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医、提携薬局、併設事業所看護師との連携に基づき支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの提供 個々の趣味に合わせたサークル活動機会の提供 各人からのリクエストを聞き、それに即した内容の対応		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的買い物レク 好天時の散歩・散策 近所の花の公園へのドライブ 地域行事への参加	毎日のように散歩に行っている。車椅子の利用者にも対応している。近くの花菜ガーデンの花見に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人の買い物の際は、出来る限りご自身で支払って頂くよう支援		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物は必ず本人にお渡しする 御家族様の了解を得た場合、電話の取次ぎを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたフロアの飾りつけ 毎日の清掃実施 空調管理 状況に合わせてのフロアレイアウトの見直し	フロアレイアウトは利用者間の感情を配慮して時々変更している。壁や廊下には行事の写真や飾りを掲示しており、季節感が感じられる。ユニット入口に盆栽を置きエレベーター内には習字作品を掲示している。職員が掃除を行っており、清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ等レイアウトを適宜見直し、快適な環境とするよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の気に入った家具等の自由な持ち込み。 生活動線等を見ながらの最適な空間の提案	ベッド・防炎カーテン・エアコン・ナースコールが備え付けてある。入口ドアには擦りガラスの小さい窓がある。各居室の入口には花の名前を記載した木札を掲げている。利用者は好みの家具を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	役割を持って頂く支援 意欲のある事への積極的参加の支援 意欲を導き出す為の支援		

事業所名	えくせれんと湘南平塚
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに理念を掲示し、何時でも見られる環境としている。 又、毎朝唱和を行い意識を高めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、自治会情報を把握している。 民生委員と日常的な交流を行い、必要に応じて民生委員に仲介して頂いている。 地域行事への積極的参加		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩等外出機会を多くし、積極的社会参加機会提供を行っている。 認知症啓発活動である「RUN伴」に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、包括、民生委員、協力医、行政書士等多彩な方々に参加頂き事業報告を行い、色々な情報を得てサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所関係各所との連携を密にし、各種情報の収集、提供を行っている。 又、報告・相談・連絡の徹底を図り、行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中開放、夜間のみ施錠している。（防犯上の意味） フロア出入口はキーロック対応としている。 その他身体拘束は厳しく禁じており、行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的社内研修の実施。 虐待に対する認識を高める為の日々の教育の実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的社内研修の実施。 成年後見人の活用、又それに伴う役所等への積極的相談。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様等に時間を頂き、契約内容等の細かな説明をし、ご納得頂いた上で御契約頂いている。 又、契約後も、疑問等は何時でも承るよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的運営推進会議の開催とその議事録等を全家族に提示している。 苦情・相談窓口の設置。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議開催。 期毎の全職員面談実施。 職員希望時、都度面談実施。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎期、各職員に目標の設定を してもらっている。 各自の適性、適所を鑑み、更 に本人の希望等を考慮し、雇用 環境を整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修によるスキル アップ。 社外研修の紹介、斡旋を積極 的に行い、又、社外研修参加希 望者に対しての配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市システム会議に登録・参 加。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは顔を覚えて貰う所から始め、傾聴等のコミュニケーションにて徐々に信頼関係を構築していくようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から御家族様とのコミュニケーションを積極的に取り、細かな疑問、要望等も漏らさず対応出来るよう心がけ、ご家族の信頼を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント、担当者会議開催は勿論必須。日々の生活の中でバックグラウンドアセスメントの実施を徹底し、初期段階で見過しがちな内容も把握出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事等を一緒に行う等で一体感を抱けるよう努めている。 家族のような関係を築く事を大事に考えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議の開催とその内容の報告の徹底。 個々の内容に関しては、都度家族と連絡を取り合い情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人等の面会の積極的受け入れ。 ストリートビューの活用。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアレイアウトの工夫 サークル活動により、同じ趣味を持つ人同士の関係構築の実施		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口は常に開放しており、何時でも相談等を受ける体制を整え、又、その旨御家族様等に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室内には本人意向に基づき自由な家具等設置して頂いている。 これまでの生活スタイルを重視し、出来る限りの対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前アセスメントの徹底と、ご家族、関係者からのヒアリングを細かく行うよう努めている。 又、常にバックグラウンドアセスメント取得の意識を持って接している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自に居室担当職員を配置し、併せて毎月のモニタリング等を含めての状況把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと逐一ミニカンファレンスを行い、又、関係者からの情報を元にシプランの作成、変更を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人生活記録の記載、職員申し送りノートの活用。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員に対し常に「既存の介護の常識等に捉われない」事を徹底させ、ニーズに対し出来る限り対応するよう指導している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物レク（毎週）、散歩等外出（好天時）等社会参加機会を設け、又、各種地元のイベント等にも積極的に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、主治医と家族の面談実施。 提携協力医による定期的往診と情報提供 異変時は協力医との連携による早期発見早期対応が出来ている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートの活用 併設事業所看護師による定期巡回の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、計画作成担当者を中心にこまめに医療機関と連絡を取り合い、連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関するマニュアルの整備・活用。又、それによる研修の実施。 段階に入る前に、事業所・家族・主治医での話し合いの場を設け、連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備。又、それによる研修の実施。 併設事業所看護師による指導、協力、助言。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の掲示 マニュアルの整備・活用 定期的避難訓練の実施 (1回/年は必ず夜間想定避難訓練を実施)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー、権利擁護に関する研修の実施。 利用者は全て私たちの人生の先輩であるとの認識の徹底。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションの中で話、表情等から見出された内容は勿論、その中に隠された潜在的希望を掘り出す事も大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事等の最低限の時間設定はさせて頂いているが、それ以外は、基本本人の自由にして頂いている。 消灯時間等も設定していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣、モーニングケアの介助の徹底。 定期的、化粧・ネイルアート等の実施。 衣類購入は基本、本人と共に行く。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的イベント食の提供 利用者様からのリクエストを受け、それに基づいたメニューの設定。 提供時、食器変更での目で楽しむ機会の提供。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量、水分量のチェック 利用者様に応じた食事形態		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア介助		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に合わせた上での定時誘導、声掛けの実施。 職員間の情報共有。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて主治医、併設事業所看護師と連携し対応。 薬だけに頼る事無く、飲食物での調整、運動機会の提供等による調整を実施。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大まかなスケジュールは設けているが、それをあくまでもベースとし、基本的に本人の希望に沿ったサービスの提供 足浴器の導入 定期的「お風呂の日」の実施		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備 寝具洗濯・日干し 各人に合ったベッド配置		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医、提携薬局、併設事業所看護師との連携に基づき支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの提供 個々の趣味に合わせたサークル活動機会の提供 各人からのリクエストを聞き、それに即した内容の対応		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的買い物レク 好天時の散歩・散策 近所の花の公園へのドライブ 地域行事への参加		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人の買い物の際は、出来る限りご自身で支払って頂くよう支援		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物は必ず本人にお渡しする 御家族様の了解を得た場合、電話の取次ぎと行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたフロアの飾りつけ 毎日の清掃実施 空調管理 状況に合わせてのフロアレイアウトの見直し		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ等レイアウトを適宜見直し、快適な環境とするよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の気に入った家具等の自由な持ち込み。 生活動線等を見ながらの最適な空間の提案		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	役割を持って頂く支援 意欲のある事への積極的参加の支援 意欲を導き出す為の支援		

目標達成計画

グループホーム
事業所名 えくせれんと湘南平塚

作成日 H30.2.20

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	防火訓練実施の際、地域の参加がほとんどできていない。	地域住民の参加を促し、地域としての訓練が出来るようにしていく	<ul style="list-style-type: none"> - 民生委員、民生委員会への声掛け、参加依頼を行っていく。 - 住民の手紙等配布し訓練の周知も参加促し 	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。